発行：福生市生活環境部
協働推進課

❖男女共同参画情報誌❖

あなたとわたし

手をつなぎ　足もとしっかり　良い社会

vol.32
2010.３月下旬号

くらしの中の男女共同参画

家族とかかわってますか、お父さん

お父さんたちは、いま家族とのかかわりをどんなふうに感じ、毎日を過ごしているのでしょうか？

日本の労働時間は世界でも有数の長さで、子どもとふれあう時間がなかなか持てないというお父さんも多いのではないでしょうか。

一方、いま「イクメン（＝育児を積極的にする男性）」という言葉が生まれるほど、お父さんの育児参加についての話題が取り上げられるようになりました。

今号の「あなたとわたし」では、今年１月 23 日に行われた公民館主催の男女共同参画フォーラム「男女共同△ってなに？　～男の言い分　男の生き方」で事例発表をした飯島稔さんにお話を聞きました。

飯島さんは家族が問題を抱えた時に、家族とのかかわりを第一に考えて行動してきました。

また、お子さんが少年野球を始めてからコーチとしてチームに加わり、地域での交流を広げてきました。そのお話から、身近なくらしの中で、子育てや地域活動を通した男性にとっての『男女共同参画』を考えてみました。

目の不自由な方への情報ツールとして開発された二次元シンボル「ＳＰコード」を掲載しています。専用の読み取り装置を使って、今号の４面記事「ワーク・ライフ・バランスの実現」の文字情報を音声で聞くことができます。コードの横に視覚障害者の方が触って位置がわかるよう半円状の切り込みを入れたものをご希望の方に配布します。専用の読み取り装置は市内の公共施設９か所に設置しています。くわしくは協働推進課へお問合せください。

●●● 子育ては一生に一度。お

飯島稔さん
福生市在住、妻・中３長女・中１長男の４人家族

顔を見て話すことの大切さを実感した

―娘さんが中学進学時に単身赴任中で、あまり相談に乗ることができなかったことから転職という道を選ばれたそうですが。

少年野球をやっていた娘が、中学に進学するときに、ソフトボールの強い私立からの誘いがありましたが、学費のことで親を気づかい、自分の本心を表しませんでした。当時私は名古屋に単身赴任しており、娘と直接顔を合わせて話すことがあまりできませんでした。子どもにとって大切な話をきちんとできなかったことを後悔しました。このことから、家族は離れて暮らすべきではないと、転職を決意し福生に戻りました。

娘はいま中３ですが、高校受験にあたっては、同じ目的を持った仲間とソフトボールを続けられ、その後も自由な選択ができるような道をと、情報収集をしたり、練習試合を見に行ったり、しっかり娘と話し合って学校を探すことができました。

やはり顔を見て話すと、気持ちがよくわかりますね。

介護する妻を家族みんなで支える

―福生に戻られてから、パートナーが週４日父親の介護に実家の福島に行くこともあったそうですね。

妻の両親は、孫である子どもたちをすごくかわいがってくれて、私はとても感謝していました。去年の２月に義父が「がん」だとわかって、妻はすごく動揺していました。持病のある義母が、つきっきりで看護していましたが、お見舞いに行ったとき、ずいぶん疲れているのがわかりましたし、妻もとても心配していたので、「これはまずいよ、行ったほうがいいだろう。」と声をかけました。当時娘は中２、息子は小６でした。

親がいるから孝行できるわけだし、子どもたちには「じいちゃん、ばあちゃんがいま大変な時だから」という話をしました。子どもたちも「お母さん、後悔しないように行ってきて。」と送り出しました。

妻は週のうち４日は福島に行っていたので、食事は私がつくり、子どもたちは温めて食べ、食器も洗ってくれました。自分たちで風呂掃除当番も決めていたようです。また野球のユニフォームなども自分たちで洗うようにしました。

そのころは朝10時から夜７時まで勤務でしたので、朝、弁当をつくってご飯を食べさせて送り出してから出勤するという生活を半年間続けました。

ご両親も嬉しかったでしょうね。
家族が協力してみんなで応援できたというのはすばらしいと思います。

少年野球を通じた地域のふれあい

―少年野球のコーチをされていると伺いましたが、どんなことを感じていますか。

子どもがお世話になっている少年野球チームの選手が増えコーチが足りなくて、始めました。野球だけでな

父さんも子育てに参加を

く、子どもたちが一生懸命やっている姿を見ると、本当に心の底から応援したくなってしまいます。

最近、地域貢献ということを意識するようになりました。子どもたちには目上の人への話し方やあいさつ、礼儀的なことまで教えることを心がけており、そういうことを第一の目的とはしていませんが、ルールに基づいてものごとを行うというのは野球も社会も同じですから、そこを教えて送り出したいといつも思っています。

また私の住む地域でも住宅事情の変化で、新しく引っ越して来た人が増え、もともと住んでいた人とあまり交流もなく、どこの誰だかわからなかったり、あいさつもしない、ということが増えてきました。

新しく引っ越して来た方々でも、子どもの少年野球を通じて親も地域の方々と知り合いができ、つながりが生まれます。

そんなことが自分の理想とする地域ということにつながってくるのではないかと思います。

子育ては一生に一度、お父さんもどんどんかかわる

―お父さんとお子さんが一緒に楽しめるようなことというのがなかなかないと思うのですよ。家族の会話が少ない家庭が多いように思います。

お父さん、お母さんも、試合や練習を見にくるだけでも、写真を撮ったり、ビデオを撮ったり、野球をネタに子どもたちとの会話のきっかけができたり、会話が増えたりします。野球にかかわらず、子どもが一生懸命やっていることに親も関心を持ってかかわってほしいですね。

私はいま大学で仕事をしていてすごく感じるのが、学生の精神年齢が低下していることです。

コミュニケーションの仕方や社会での役割といったことが親から子どもに伝えられていないと思うのです。あ、これは親子の会話がないなとわかるのです。

お父さん、お母さんが子どもと距離をつくっている。「子どもにまかせていますから」と親が責任を放棄した結果、子どもが自分の知識という狭い領域で物事を判断し、社会の一員としての役割を果たすという意識を持たず、自分のことしか考えない子どもになっているように思います。

仕事が忙しいからと、子育てをお母さんにまかせっぱなしのお父さんが多いと思うのです。子育ては一生に一度で、取り返しがつきませんから、お父さんもどんどん入っていきましょうよ、と言いたいですね。子育てくらいは参加すべきだと思います。

家族が問題にぶつかった時、お父さんも一緒に、みんなで何を大切に、どう生きたいかを、立ち止まって考え、話し合うことがとても大切だなと感じました。

子育てにかかわることで生まれる地域の人とのつながりが普段の生活に豊かさをもたらすのだと思いました。

お父さん、家族はもちろん、周りの人とも〝顔を合わせて話すことの大切さ〟を、もう一度見直してみませんか？

認定

市内の企業「武陽ガス」が
平成 21 年度
東京ワークライフバランス認定企業（長時間労働削減部門）に選ばれました

この制度は、東京都がワーク・ライフ・バランスに関する優れた取組を行う中小企業を認定するものです。

営業窓口における交代制シフト勤務、繁忙期の変形労働時間制度、携帯電話を活用した作業管理システムによる効率的な運営や、部署として残業を減らすため、特定の社員に仕事が集中しないための終礼時の残業時間と業務内容発表などの取り組みが評価されました。

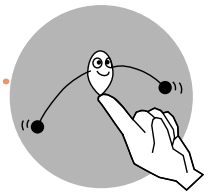
■代表取締役社長　山下真一さん

「お客様に対しても受付時間の延長によりサービスが拡大しました。企業・働く人・顧客それぞれにメリットが生まれました。」

■営業部お客様サービス課　原口明日香さん

「シフト制により家事の時間が取れたり、また定時退社しやすくなったりと、働きやすくなりました。」

もっと家族にかかわりたい、お父さんたちのキーワードは？
早稲田大学 文学学術院教授の村田晶子先生に伺いました。



「ワーク・ライフ・バランス」の実現

村田　晶子

内閣府が 2008 年 6 月に実施した「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する特別世論調査」によると、働き盛りの 30 代男性は、家庭に優先度をおきたいと希望する割合が「33.6％」に対して、現実に関われているのは「16％」にとどまっています。逆に仕事の優先度は、希望「4.2％」に対して、現実は「48.7％」と 10 倍以上の開きがあります。

日本政府が 1995 年に批准した「家族的責任を有する男女労働者の機会均等及び平等待遇に関する条約 (156 号)」は、育児や看護・介護など、家族責任をもつ労働者は男女を問わずその責任を果たす際に職場で差別されてはならないという考え方を提示した画期的なものです。批准したわが国政府にはそれを守り国民に広く知らせる役割がありますが、男性の育児休暇取得率は全く上がらず、この 10 年以上自殺者は 3 万人を越え、特に男性のその割合が高くなっています。

「ワーク・ライフ・バランス」。仕事、家庭、地域生活の調和の取れた人生の実現。近年、女性の働き方のところで議論される傾向が強くなっていますが、実は今、男性の生き方を考えるためにみなで立ち止まる時なのではないでしょうか。社会教育や生涯学習の機会は多く女性たちの学びの場でした。今こそ、働き盛りの男性が、自分たちのことを考えるために、学び、休息し、遊び、家族や地域社会の豊かな人間関係の中で自らを見つめ直す時間がとても大事だと思うのです。

ご存知ですか？男女共同参画情報コーナー

輝き市民サポートセンター（福生駅西口プチギャラリー 4 階）に各区市町村の情報誌や男女共同参画に関する資料を備えています。ご利用ください。
問合せ : 輝き市民サポートセンター　電話 042-551-0166

市民編集員 募 集 中

「あなたとわたし」の編集員を募集しています。興味のある方は、協働推進課までご連絡ください。

ご意見・ご要望をお気軽にお寄せください。

本誌は、市民がつくる市民のための情報誌です。感想をはじめ、特集で取り上げてほしいテーマなど、ご意見･ご要望をお気軽にお寄せください。市ホームページ（トップページ左側の市民のご意見箱）からもお送りいただけます。

広告掲載スペース

市民編集員　○柏倉利明　○輿水和代　○寺﨑敏枝　○濱原幸恵　○ Saeko.S（イラスト）　○牧野　霞
企画編集　NPO法人 NAFA子育て環境支援センター

あなたとわたし vol.32　2010 年 3 月下旬号
発行：福生市 生活環境部 協働推進課
〒 197-8501 東京都福生市本町 5 番地　電話 042-551-1590
http://www.city.fussa.tokyo.jp/